

日々新聞

第30号

北



花源記

郎福三



東京深川金門新田住む伊藤助之
腹と切つて此入常々御嶽山を信心と
居りて女房のむすひ明徳年二月廿日に
實父の病を見舞ふ野筋へ行り留守中日
三五日にしもの通り信心をほめてやがて
小便のちぢりかみ込も坐し於へてぬるるかと尋ると浴場を
短刀をのどへさして死んでのゝるを見つて家中大騒ぎなり
平生信心ありかたまるふあはれ利者で有に自念を命をするとい

イイ利益が有るた
札の上跡を頼むと書
置ふうとがそてあり
しりて日暮ん山へさる
法のおいふまかをうらみ

真徳屋

後頭

